



海辺・川辺調査レポート

■ 名 前 (ふりがな)	田中 大樹 (たなか たいき)
■ グループ名	
■ 学校名	岡山県立笠岡工業高等学校
■ 学 年	電子機械科 1 年
■ 年 齢	1 6 才
■ お手伝いしていただいた方の名前	天野与三郎 (白石踊会長)

■ レポートした場所	岡山県笠岡市白石島 白石島港 旧土手の浜付近
■ レポートの題名	白石島港の開発と海岸の変化
■ 内 容	<p>私の住む笠岡諸島は祭祀遺跡や朝鮮通信使・北前船の寄港など古代から海上交通の重要な位置 (瀬戸内海の中央) にあります。その様な歴史の中で白石島には国指定の重要民俗文化財「白石踊」が伝承された「土手の浜」と呼ばれるコミュニティ広場があります。白石踊会の方から拝見した昭和 1 0 年頃の写真から海岸の変化に驚き調べてみました。</p> <p>現在の状況は砂浜からコンクリート護岸に変貌しポンツウが付き、対岸には漁業関係の施設が並んでいる。古い写真の右側の土手は元禄時代に締め切られた干拓堤防だと教えていただきました。その水門の排水から三角州が出来、土手の浜と呼ばれる広場となり、船の修理や盆踊りの広場として 5 0 年位前まで人々が集っていたようです。</p> <p>5 0 年間で砂浜は埋め立てられ村役場や水上警察所など公共の建物が建ち市役所支所、公民館、警察署に建物が変わるとに海岸に道路が拡張され海は少しずつ遠くなっているように感じていますし、島の主産業の漁獲高も減少していると漁協に勤めている母は言います。</p> <p>自然海岸や魚の成長する藻場の重要性が再認識され、私の島でも養浜事業や海洋牧場計画などが国や県事業で始まっています。</p> <p>私は島に住みながら、海や暮らしについて無関心でしたが、今回の調査から砂浜や人の集う場所の大切さや自然との調和の重要性を知りましたし、古代から 5 0 年前位までの変化とその後の 5 0 年の変化の早さと自然に復帰しない変化にも驚いています。</p> <p>今後は海と共に暮す自覚を持ち、教えて頂いている白石踊の太鼓にも精進し、海浜清掃などを通じての自然保護や伝統芸能の伝承にも努力し</p>

て趣味のカメラでも変化の記録を残そうと思います。



昭和10年頃の土手の浜
盆踊り大会で農林大臣賞
の受賞記念写真
裸で見る子供も多い
(白石踊会 提供)



現在の様子
赤い屋根は公民館と市役所支所
対岸は漁協や給油施設
干拓土手には民家、警鐘台、消防機庫
現在は公民館前の広場で盆踊り



手前の浜は護岸され棧橋
山の巨石で位置の確認が出来る
禿山は松で覆われているが
海岸はコンクリート護岸に変わる
右の干拓土手の出来る江戸以前は自然
の良港で唯一北風に弱かったと聞く



白石島港の開発が一望できる
水場、唐人構（朝鮮通信使の関係）などの
地名が残る。